

令和4年度第1回別府市総合教育会議議事録

- 1 日 時 令和4年6月16日(水)
開会 午後1時50分 閉会 午後3時30分
- 2 場 所 別府市立青山中学校
- 3 出席者
- | | | |
|--------|-------------------|-----------------|
| (構成員) | 別府市長 | 長野 恭紘 |
| | 教育長 | 寺岡 悌二 |
| | 教育委員 | 福島 知克(教育長職務代理者) |
| | 教育委員 | 川崎 栄一 |
| | 教育委員 | 新谷 なをみ |
| (専門家・ | 株式会社 Do it | 土井 敏裕 |
| 教育関係者) | 大分大学教育学部附属小学校主幹教諭 | 眞田 貴弘 |
| | 大分大学教育学部附属小学校教諭 | 甲斐 義一 |
| (事務局) | 総務部長 | 末田 信也 |
| | 総務課長 | 牧 宏爾 |
| | 総務課長補佐兼係長 | 藤内 洋一 |
| | 総務課主査 | 三浦 文雄 |
| | 総務課主任 | 中城 聡太 |
| (関係部局) | 教育部長 | 柏木 正義 |
| | 次長兼教育政策課教育施設整備室長 | 稲尾 隆 |
| | 教育政策課長 | 奥 茂夫 |
| | 教育政策課参事 | 時松 哲也 |
| | 教育政策課長補佐兼係長 | 釘宮 誠治 |
| | 教育政策課指導主事 | 重岡 秀徳 |
| | 学校教育課長 | 松丸 真治 |
| | 学校教育課参事 | 利光 聡典 |
| | 学校教育課指導主事 | 長嶺 敏雄 |
| | 企画戦略部参事(CDO) | 浜崎 真二 |

4 議 事

ICTを活用した今後の教育について

- (1) iPad導入後の経緯及び対応等と学校での使用・持ち帰り等の状況について
- (2) 学校での研修と授業について

発言者	発言の内容
市長	先ほど学校の中の様子を拝見させていただいた。タブレットを使っていない子供達もタブレットを使っている子供達も非常に楽しそうに授業を受けていたのが印象的だった。
教育政策課長	(iPad 導入後の経緯及び対応等について説明)
学校教育課長	(学校での使用・持ち帰り等の状況について説明)
大分大学教育学部附属小学校主幹教諭	(ICTを活用した授業の具体例を説明)
大分大学教育学部附属小学校教諭	
Do it 土井	<p>附属小学校の発表を聴いて、とても大事なポイントがいくつかあった。</p> <p>まずは校内の組織の編成がきちんとできているということ。それからスキルアップのための連携が学校の組織の中でちゃんとできていること。そもそもの話に立ち返った上でスタートを切ったというポイントが実はすごく大事なのではないかと思う。</p> <p>今日、多くの教室で使われていたのがロイロノートスクールというソフトであるが、あくまで一斉授業のためのツールである。</p> <p>そもそもこれから目指していく授業は一体どこを目指していくのか。一斉授業をデジタルで置き換えて効率的に進めていくというのがこれから先、我々の描く未来の図であったか。</p> <p>子供達に、主体的な子供達に育てて欲しいということを皆がよく言う。しかし、主体的に育つ子供を育てたいのだけれども、先生は指導したい。先生が指導したいと思って指導している間は、子供達は指導される存在で、受動的な学習者にしかなれないのではないかと思う。</p> <p>今目指さなければいけないのは、全ての子供達の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現であり、それは国の示す方向性である。そのために、学び方自体をアップデートする必要があるのではないかと思う。</p> <p>活用の現在位置、今自分の学校、自分のやっている授業が、どう</p>

いう授業なのかというのを見取るための SAMR (サマー) モデルというものがある。

SAMR (サマー) は下から順に上がっていく。代用、増強、変容、再定義というふうに授業はより良くなっていく。

まずは、ICTを入れると、代用が起きる。まずはPDFを生徒に配布するとか、教師のスライドを拡大表示する。これが一番下のレベルの活用である。

次に、増強になると生徒が回答を入力して返送する。授業支援ツールを使って先生と生徒のやり取りを双方向に行う。ほとんどの日本の学校はここで止まっている。

そして、その次に進もうと思うと、事前に教材や情報を配信し、学び合う場になりそうな問いや授業デザインとなる。

最終的には学びの本質を捉え、探究型にシフト、空間や時間に捉われない授業を再設定するというふうに進化して行かなければならないのであるが、多くの学校はこの増強のところで何となくできた気持ちになっているというのが現状である。

このためには授業改革を進めて行くのであるが、おそらく、授業改革というところに着手しないと、そこの領域には行かないのではないかと思う。

そうすると、ツールでいくと今のロイロノートというのは、上上がりづらい。加えて、ロイロノートというのは社会に出て使うツールではない。キーノートとかパワーポイントのような大人になっても社会に出て通じるツールを使う方がいいのではないかと思う。

それに合わせて、先生自体も授業観を変えないと、なかなかそこに達しない。教師主体で管理的な授業をやっている以上は代用から抜け出せないし、これが子供達の主体的な学びを目指す子供達の学びの支援者、創造する方と楽しむ先生達、探究的な学びの伴走者で共に成長を喜んだり、外の世界と繋いでいくということが先生のマインドとして変わってくると授業改革は進んでいく。そうすると子供達の学びの様子も変わってくる。

元々は、教わるとか記憶することに重きを置かれていた。これがだんだん知るとか受動的、考える、能動的と考え方が変わって創造するとか伝えることに子供達の活動が変わってくると、それは授業が少しずつ改革できるのではないか。

なかなかその先に進めない自治体が今、全国で多い。ほとんどの学校は、これだけタブレットが入ると使わざるを得ないという状況なので、使っていることは日常化しているが、授業自体は変わっ

<p>新谷委員</p>	<p>たか、そもそも何のためのGIGAスクールだったのか、これから先どういう教育を目指すのかというところに至ったときには、ちょっと今の段階では不十分なところがあるのではないかと感じる。</p> <p>ただ、これをどこか頭の中に入れておくと、もうちょっとこういうことが出来そうかなというのが見えてくるのではないかと感じる。</p> <p>いくらICTの研修をしてスキルが上がってiPadが得意になっても授業のフレームを変えることはすごく難しいことである。自分たちの経験とか思い込みとか授業ってこうなっていると安心である、子供がちゃんと椅子に座って前を向いて一生懸命ノートを取っている姿が最上の学びの姿だという我々大人の思い込みを変えないと、授業の変革というのはできないのではないかと感じている。</p> <p>高校の評価の時に高校生を呼んで、高校の先生達がいなくて聞くと、やっぱりデジタル教材を使う授業の方が分かりやすいし見やすいし楽しいというふうな、そんな感想をみんなから聞いた。先生も黒板に書く時間が要らなくて時間がかからないし、1時間の中でいろんな活動が出来ていると思った。</p> <p>英語科は、去年から新指導要領の教科書が入っているが、教科書会社がデジタル教材を作っていて便利になっている。教科書の中にQRコードがどのページにも付いていて、QRコードをiPadに当てて読み取ると、家に帰って学校で読んだことが、自分一人で復習できる。学校で音読できなかった子もQRコードを読み取って、音読できる。</p> <p>英単語は手が覚えるので、タブレットについているペンじゃなくて、鉛筆で書いて覚えなさいと学生に言っている。やはりアナログの勉強も功を奏すると思うので、そこはデジタルの勉強と分けるといいと思う。</p> <p>新しい学習指導要領は小学校も中学校も特別活動の中に多様な他者と共存してという言葉があって、この多様な他者と共存するというのは、今の子供達の5年後10年後にすごく関係してくる言葉だと思う。5年後10年後、子供達はいろんな人達と働く。</p> <p>海外の人と働くこともあろうし、インクルージョンが進んでいるから、当然、障害のある人とも働くであろうし、LGBTもいるであろう。そういう人たちと、小学生も中学生も一緒にさせたいと思うので、ZOOMで支援学校の生徒と一緒に特別活動や総合的な学習の時間ができたら良いと思った。</p>
-------------	---

<p>福島委員</p>	<p>ICT教育でも、東京でうまくいっているから大分でうまくいくか、附属でうまくいっているからここでうまくいくかといったらやっぱりそうはいかないのではないか。</p> <p>参考にはなるのだけれど別府なりのことを先生が考えながらやるというのができるかもしれない。</p>
<p>川崎委員</p>	<p>企業人として生徒達が学校で学んで社会人になったとき、社会人として最低限の基礎学力とコミュニケーション能力が必用だと感じている。</p> <p>そういう社会人を育てるのにどういう授業をしたらいいのかというときにICTを使うというのは一つの手段であるし、必要性というのがあると思う。DXという形になった場合、企業でさえなかなか前に進むことができないということもある。だから、一つ一つ今やれることをやりながら、アナログというか、人と人の対話等をミックスしながら目指す方向に引っ張っていく、そういうことが授業の中でも必要だと思う。</p>
<p>寺岡教育長</p>	<p>市長が最初に言ったように子供達が楽しそうに笑顔で使っていたということで、タブレット端末を使って授業を進めているといういわゆる授業改善は進んでいるなと思った。しかし、あえてここでタブレットを使う必要があるのかなという授業もあった気がする。</p> <p>授業改善が授業改革にイノベーションの所に行くときに子供達がタブレット端末で深い考えに、また、問題解決が大幅に転換されるとか、深くなるとか、何かタブレットによって自分の考え方、見方、感じ方が変わるという、いわゆるGIGAスクールが目指している所は一体何なのかというのは、今日は様々なご意見をいただいて、何のためにタブレットを使うのか、子供達にとって本当にタブレットの活用の目的が何なのか、先生方も授業改善、意識改革というのを、指導観、教育観が変わったのだろうか、あるいは変わっているのだろうかと思った。</p> <p>今日市長さんがおられますので、どれくらいの予算が必要でどういう研修があってどうすれば子供達が課題を解決して将来の力としていくのだろうかとかということを、今日本当に、青山中学校の授業、附属小学校での取り組み、また土井アドバイザーのお話を聞きながら、ちょっと発想の転換というか、授業のデザインのあり方というのを反省させられた。しっかりと子供達のために研修をして行かないといけないと強く思った。</p>

<p>市長</p>	<p>私としては、コロナ騒動があつて、学びを止めないという所が一番だった。タブレットを一人一台持たせて、家にいてもコロナの濃厚接触者になったというときに自宅でもそれぞれ学習ができるような環境を整える。コロナに関して言えばこのタブレットはそのためにあると言っても過言ではなかった。</p> <p>そういう体制ができたので、次は本格的にタブレットを使ってどういうふうに目的に向かってこの便利なツールを使いこなしていくかということにかかってくるのだと思う。</p> <p>さきほど土井さんの話の中で個別最適という話があった。これからは全体最適ではなくてタブレットを使って個別最適をめざして、それぞれの学習進度とか学習速度とか学習内容とか分野とかそんな所の深掘りをそれぞれしていけるという大きなメリットがあるのだと思う。</p> <p>教育の目的は将来自分の足で立って食べていっていい人生を送ることだと思う。自立していつか今後必要なスキルをどういう風につけていかねばならないのかというところの自立のゴールの所に今直結していないと、今やっていることが将来のスキルとか、思考の発想の仕方とか、そういったものに直結していなければ何の意味もないと思う。</p> <p>総合教育会議の中では、SAMR(サマー)モデルの2段階から3段階、4段階に進んでいくための、まず意見共有ができたと思う。3、4段階とステップを踏んでいくためのこれからの具体的な作業とかこれからどういうふうにやればいいのかというところの話合いができたらいいいのではないかと思う。</p>
<p>Do it 土井</p>	<p>一つの学級に子供達の多様性がある中で、教師一人による紙ベースの一斉授業スタイルに限界がきていると、内閣府からの資料「Society 5.0 学校の現実」が出ている。</p> <p>これから生きるには、デジタルの力で時間、空間、地域、地方格差の壁を越えていくのだと書かれている。揃える教育から伸ばす教育に転換する、多様な幸せを実現する、とも書かれている。</p> <p>皆同じことを一斉にやり、皆と同じ事ができることを評価してきたこれまでの教育に対する社会全体の価値観を変えていくことが必要である。</p> <p>今は、子供が主役でコーチングに先生がなろうとしている過渡期、潮目ではないかと思っている。</p> <p>いわゆる授業の達人を目指しなさいということはずっと先輩の</p>

	<p>先生方や指導主事からも言われてきた。今の世の中はそうではなくて、みんな違っていいのだよということに世の中ではなっているのに学校の先生の価値観だけがとにかく授業が上手になれということを押付けられてきている。</p> <p>やはり多様性を認める社会の中で先生とか子供の多様性、ダイバーシティを認めていくことが必要なのではないかと講演とかで話をしている。主体的な学びを支援する伴走者の役割というのがたぶんこれから今先生達に求められている立ち位置なのではないかなと思う。</p> <p>多くの先生達がとにかくスキルがないので使えない、使いたがらないというところがあるので、基礎的なスキルを上げていくのと、一方で今若い先生達もものすごく増えていて、その先生達、今までの過去の成功体験を持たない先生達がこれから新しい授業をどう作っていくかというイノベーターというような人材を育成するというフレームが走っているところが非常に増えてきている。</p> <p>あとは、管理運用とかアプリのインストールとかアップデートとか日常業務の部分をちゃんと役割を分けないと一人の担当者が授業の実践者でもあり、スキルアップを担い、それから管理運用もするという所でいくと、うまくいかない。</p> <p>別府の場合は、モデル校の2校がすごく稼働していて西中学校と南小学校だけはぼんと伸びている。これをどういうふうに面に展開していくかという所と、これから先の授業をだれが作っていくかというところの人材育成のフレームが足りていないなと感じている。</p> <p>国から出ている方向性も明らかな中で我々はどういう方向性に向かっているか、また、何が必要かということ一度考えてみる必要があるんじゃないかなと感じている。</p>
大分大学教育学部附属小学校主幹教諭	<p>今日は青山中学校の先生方の授業に参加させていただき大変勉強になった。本校は地域のモデルとなるべく使命を持っている。これからも子供達に力をつけてあげられるような授業改善から授業改革へと向かっていく目標も今日持てたと思う。多くの方にぜひ附属小学校の授業の参観をいただければと思う。また、要請があれば、研修等の講師として喜んで伺いたいと思う。</p>
大分大学教育学部附属小学校教諭	<p>ICTの活用ということでそもそもICTを学校の中に入れていくことに賛成かということ、私は賛成する。理由は、ICTを使うことで今まで苦手だった児童とか、特に学力の低い児童に有効に働くことを見たからである。また、レベルが高い児童には勉強してい</p>

市長	<p>くときにどうなのかというところにもICTは応え得るのではないかということで賛成する。</p> <p>ICTを活用して行こうとすると、授業のフレームの変更を必要とするというのが一つはポイントかと思う。</p> <p>今までの授業の目的に沿ってICTを活用しようとする、当然今までの授業では黒板を使ってきたわけなので黒板を使いたいという先生方が多いという意味でいうと、目的を持った活用が必要だなと思う反面、目的を探しながらひとまず手段として使ってみるといところも何かこういう意味がある活用が見つかるのだなという発見があるという意味で有効なのかなと個人的には思う。</p> <p>また、場を変えて色々な方法で皆さんのご意見をいただける機会を作ればと思っています。委員の皆様方、またアドバイザーの先生、今日はありがとうございました。</p>
----	---